

平成30年秋の全国交通安全運動実施計画

公益社団法人日本バス協会

日本バス協会は、別添の「平成30年秋の全国交通安全運動推進要綱（平成30年7月2日中央交通安全対策会議交通対策本部決定）」及び「平成30年秋の全国交通安全運動国土交通省実施計画」に基づき、下記のとおり、9月21日（金）から同月30日（日）までの期間中における本運動の効果的な実施を推進することとする。

記

1. 各都道府県バス協会における具体的な実施細目の作成等

各都道府県バス協会においては、傘下各バス事業者と協議し、本実施計画に基づき地域の実情に応じた具体的な実施細目を作成し、各バス事業者に実施推進方を周知徹底すること。

2. バス事業における重点実施事項

(1) 適切な安全運行の確保

- ① 各バス事業者は、運輸安全マネジメントを徹底し、輸送の安全が最優先であるという意識を内部に浸透させ、経営トップから現場まで組織が一体となって輸送の安全性の向上に努めるよう意識の高揚を図ること
- ② 平成29年9月29日策定されたバス事業の総合安全プラン2020を踏まえたバスの安全運行の徹底を図るため、次の事項に重点を置いた取り組みを推進すること。
 - ・ 運転者の体調急変に伴う事故を防止するため、「事業用自動車の運転者の健康管理マニュアル」（平成26年4月18日改訂）に基づき、運転者の疾病等の状況、医薬品の服用状況等を把握し、健康状態に異常が認められた場合には、運転者を交替させる等、適切な運行管理を徹底すること。
 - ・ 過労運転や睡眠不足による事故を防止するため、日々の点呼における疲労、睡眠不足の状態の確認や、適切な運行指示書の作成などの運行管理を徹底すること。
 - ・ 乗務中の携帯電話による通話やスマートフォンの操作を絶対に行わないよう徹底すること。
 - ・ 一般路線バスにおいては、特に、車内事故を防止するための「ゆとり乗降」「ゆとり運転」を励行すること。また、高齢者の事故防止に特に配慮すること。
 - ・ 適性診断の結果も活用するなどして、運転者に対し「思いやり・ゆずり合い」を意識させ、周囲の交通に配慮した運転に努めるよう指導すること。特に子供、高齢者、障害者等に配慮し、歩行者及び自転車利用者の安全確保を図ること。特に、交差点右左折時における横断歩道手前での一旦停止を励行すること。
 - ・ 飲酒運転の根絶に向けた運転者に対する指導監督を適切に実施するとともに、運行の際には、アルコール検知器の使用による酒気帯びの確認を確実に行うなど、厳正な点呼を実施し、飲酒運転の絶無を図ること。
 - ・ 覚せい剤や危険ドラッグ等薬物の使用防止の指導・啓発を徹底すること。
 - ・ 夕暮れ時における前照灯の早めの点灯及び、暗い道での走行用前照灯（上向き）とすれ違い用前照灯（下向き）の細めな切替えを励行すること。
 - ・ 車高、視野、死角、内輪差、オーバーハング、制動距離等各自動車の構造上の特性を把握し、安全確保を徹底するよう指導すること。また、進路変更、転回、後退等の

際は、あらかじめ目視、バックミラー等により周囲の安全を十分に確かめるとともに、後退時等に周囲の歩行者等に対して警報を発する装置（後退警報装置、左折警報装置など）を備える車両では、やむを得ない場合を除き、当該装置を停止しないよう指導すること。

- ・ バスジャック対策について再点検を実施すること（乗務員・職員教育、緊急連絡手段の再点検）。

（２）シートベルト着用等の推進

- ① 乗務員に対し、適正なシートベルトの着用を指導すること。
- ② 乗客の安全を図るため、高速自動車国道等を運行する事業者及び貸切バス事業者は、次の事項を実施すること。
 - ・ 運行前に、シートベルト及び座席の不具合の有無を点検すること。
 - ・ シートベルトを座席に埋没させないなど、シートベルトを乗客が常時着用することができる状態にしておくこと。
 - ・ 車内放送、映像等により、乗客にシートベルトの着用を促すこと。
 - ・ 乗客のシートベルトの着用状況を発車前に目視等により点検すること。
 - ・ 高速自動車国道等を走行するバス事業者及び貸切バス事業者においては、シートベルトの着用について、リーフレットを座席ポケットへ備え付ける等、あらゆる機会を捉え、乗客へのシートベルト着用の注意喚起を行うこと。
- ③ バスガイドの高速道路や危険箇所等における「着席案内」に努めること。

（３）車両の点検整備の確実な実施

- ① 日常点検整備及び定期点検整備の確実な実施について、「自動車点検整備推進運動」等を通じて徹底を図ること。併せて、ホイール・ボルトの折損による車輪脱落や車両火災、車体腐食による操舵不能事故、スペアタイヤ落下による事故等を防止するために確実な点検整備を励行すること。
- ② 不正改造車の排除について、「不正改造車を排除する運動」等を通じて徹底を図ること。

（４）広報活動の推進

- ① 車内放送や車両、停留所、事業所等へのポスター、垂幕、立看板等の掲示により、本運動の趣旨を一般に周知する。
- ② 広報誌等を通じ、本運動の趣旨及び次に掲げる広報事項を周知する。
 - ・ 本年９月３０日（日）が「交通事故死ゼロを目指す日（※）」とされたこと。
 - ・ 歩行者及び自転車利用者（特に子供と高齢者）の安全や乗合バス等における高齢の乗客の保護。
 - ・ 全ての座席のシートベルトの正しい着用の徹底。
 - ・ 飲酒運転や無免許運転、覚せい剤や危険ドラッグ等の薬物使用運転等、悪質・危険な運転行為の禁止の徹底。
 - ・ 「迷惑駐車をしない、させない」の励行。

※交通事故死ゼロを目指す日

国民一人ひとりが交通ルールを守り、交通マナーを実践するなど交通事故に注意して行動し、交通事故の発生を抑止することを目的として内閣府が定めた日。